

平成25年度Cライセンス審判員学科試験問題

《平成25年9月22日（日）実施》

地区名

氏名

*問 主な注意事項について（ ）に当てはまる語句を下から選びなさい。

「国際柔道連盟試合審判規定」の主な注意事項

- 1) 「帯から下を直接手または腕で攻撃・防御した場合は反則負け」の新しいジェスチャーは足を一步前に出して、足と同じ方の腕で足を（ ）ような動作をする。
- 2) 試合者が負傷した場合は、副審は（ ）ままで観察する。カウントはとらない。
- 3) 医師は爪を切るのを手伝うことが出来る。選手を診察する上で体に（ ）ことは違法ではない。
- 4) 出血の場合、必ずテーピング等で（ ）する。同じ部位は3回目で相手が「棄権勝ち」となる。出血が収まらない場合は、いかなる場合でも相手に「棄権勝ち」が与えられる。
- 5) 嘔吐があった場合は、（ ）に「棄権勝ち」が与えられる。
- 6) 頭部や脊椎を負傷したと重傷を予想される場合は、主審の（ ）で医師を呼び診察させる。（ ）に関係ないが、その場合、続行可能かどうか医師から（ ）を得る。
- 7) 直接「反則負け」になった試合者は、その後の一連の試合に出場できない。ただし、ダイビング（高体連は出場できない）と帯から下を手で攻撃・防御による「反則負け」の場合は相手に（ ）を与えたわけではないのでこの後の一連の試合には出場できる。
- 8) 歯の矯正のために固定された（ ）をつけることは認められるが、出し入れ可能なマウスピースは禁止。鼻に付けるテープは禁止。
- 9) 投げ技の評価や反則の取り消しを行う場合はジェスチャーのみで（ ）はしない。
- 10) 主審は試合開始の位置に戻らなくても、また試合者同士が（ ）に戻らなくても双方が向き合って公平な場合であれば「始め」をかけても良い。
- 11) 一本と有効に分かれた場合は（ ）を行う。

反則の適用

- 1) 反則を与えるタイミングを考えること。見極めが大切であり、ただ単に機械的に与えるのではなく、技をかけるタイミングを狙っている場合は攻防を（ ）させ様子を見る。
- 2) 次の禁止事項を犯した場合は、より厳格に対処する。
 - ① 腰を曲げ、頭を下げた低い姿勢をとり続けること。
 - ② 偽装的攻撃をすること。

* 偽装的でなくても組際に片襟、（ ）で技を掛け続ける場合は反則（ジェスチャーは組み合わないと同じ）を与える。

 - ③ 組み手を嫌うこと又は自分の襟を押さえたり、ただ相手の奥襟を上から押さえ続けて相手に（ ）ようにすること。
- 3) 組み手
 - ① 自分の襟などを手で押さえたり、広げたりして相手に握らせない場合、「（ ）に取り組ませない」として「指導」。
 - ② 首抜きは、抜いた後（ ）すれば反則とならない。但し、抜いた後極端な防御姿勢の時は「指導」。抜いたあと姿勢はよいが攻撃をしないときは2回目で「指導」。
- 4) 防御姿勢の反則は、実際に防御しているのか、相手の（ ）（反則を取ろうとしてブロックした状態）によって攻撃できないでいるのかをよく判断すること。
- 5) 場外に下がり回り込みもせず出ていく場合は（ ）で「指導」。

座った 触る 回数 危害 発声 組ませない 止血 金属 開始線

故意 揺さぶり 攻撃 合議 掬う 継続 片手 一回目 相手 判断 報告